

## SDGs 14「海の豊かさを守ろう」の活動

### プラスチックごみで作った『クジラのオブジェ』

唐津市立小川中学校

本校では、総合的な学習の時間にSDGs「海の豊かさを守ろう」に取り組んでいます。小川島の海にはたくさんのゴミが流れ着いており、その中でもプラスチックごみが多くを占めています。

クジラのオブジェは、小川中学校2、3年生(当時)の生徒が、様々な人に海の現状を知ってもらうことを目的として、2年間かけて作成したものです。オブジェには流れ着いたプラスチック製のライターを使っています。



クジラのオブジェ  
流れ着いたプラごみで制作



おがわしま  
小川島の磯で見られる海ごみ



2022/09/08 13:02  
しょうちゅうがくせい  
小中学生での海ごみ調査



おがわしま  
小川島の様子

## ●おがわしま 小川島の海を守るための小川中学生の活動について

小川中学校では「小川島の海の豊かさを守ろう」をテーマに総合的な学習を行っています。昨年度からはSDGsの14番、15番を意識して学習に取り組んでいます。昨年度は「ウニの殻」に目を向けましたが、今年度は海ごみの「ペットボトルのキャップ」に目を向けました。ペットボトルのキャップが色鮮やかできれいなことと、理科の学習でペットボトルについて学習したことから、ペットボトルキャップを加工できるのではないかと考えたからです。ペットボトルキャップから下図のようなアクセサリを製作しました。アクセサリの下の色鮮やかな部分は、ペットボトルキャップを小さく砕いて、アイロンで溶かして作りました。この作品には、海のゴミも有効に活用できることや、海の生き物を大切に守りたいとの思いが込められています。この作品は、10月1日に行われた小川小中学校の文化祭の「総合的な学習」の発表の場で島民の方に紹介し、20個ほどですが配布しました。



小川小中学校の文化祭で展示したクジラのオブジェと、プラゴミから作ったアクセサリ



プラゴミから作ったアクセサリ



上空から見た小川島の様子